夕刊 磐城新聞
十二月二十四日發行
定價 一部 金五錢 一ヶ月 金六拾錢(郵稅拾五錢)
廣告料 普通欄 金六拾錢 特别欄 金九拾錢 五號十二字詰一行 (場所指定一行一圓 …增)
編輯印刷兼發行人 柏木 ? 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
登錄受信電略(タイライワき) 平局私書函第十二號 電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)

童謠の更新運動起る
日本童謠協會の活躍
詩人音樂舞踊家の結束

兒童藝術運動の黄金時代童話雜誌『赤い鳥』『金の星』『童話』等の最も活躍した大正八、九年の交所謂新らしい童謠運動の發生を見た。野口雨情、西條八十、三木露風、北原白秋、白鳥省吾、島木赤彦氏等が月々次々と雄篇名作を發表し新進優秀作家を推薦して之を基礎付けたが童謠が全く文壇的、詩壇的、藝術的に認識せられ取扱はれたのは大正十年『童謠』『かなりや』の二雜誌が相前後して生れ大小詩人、作曲家が競つて之に佳作を發表して以來のことである。

當時文部省は童謠を異端視して之が小學校に入るを排斥し地方長官また各々訓令を發して之を禁止したが童謠の神聖と根強さとは之等官權の威力壓迫を以てしても如何ともする能はず反つて益々普及し發展して遂には綴方に音樂に遊戲に舞踊にレコードにラヂオに今日の勢力を張るに至つた。

然しながら顧つて考ふるにこの童謠運動によつて發見された最も日本の誇りであり大なる收穫である『子供が立派な詩を作れる』『子供にも立派な詩の世界がある』この歸趨の明示はどうなるか、童謠と教育音樂との接衝、融合はどうなるか更に遊戲は更に舞踊は等々の諸懸案が殘されてゐる。

またこの國家非常の秋に際しての童謠、大滿洲國の成立を見たる新日本の童謠の行くべき道は如何、童謠も今や一大轉換期に入つてゐるものである。

茲にこの諸問題を研究し解決すべく往年野口雨情、西條八十、三木露風、山田耕作、近衛秀麿、本居長世氏等を顧問に雜誌『童謠』を發行して斯界に最も貢獻し最も光輝ある歴史を有する日本童謠協會は前記各顧問を中心に新進詩人、音樂、舞踊家結束して新春を期し先づ休刊中の『童謠』を復活すると共に講演會、音樂會、舞踊會、講習會等を開催しと一大飛躍をなす由で目下着々其の準備中とのことである。

因に日本童謠協會事務所は東京市外瀧野川町瀧野川番地、復活號は今月中發行八原稿目下募集中。

『クリスマス』
中川浩

冷たい夜空に銀の星がピカリピカリと光つて居ります。
坊やよ 御覽よ……
お星さまのよく光ること
………
私達のイエスさまはきつとこんな樣な、靜かなそして潔らかなよい晩に遠い、ツレヘムのダビデの村の厩のなかで御降誕になつたのでせうね……
お母さまのマリヤさまにお抱れになつた可愛いゝイエスさまが眼に見えるやうですね
そら!坊やよお聞き……
教會堂のチャーチベルが靜かに聞えるでせう
讃美歌もかすかに聞えますね……
『神の御子のイエスさまは ねむりたまふおとなしく かひばをけのなかにても うたぬ藁の上にても……』
坊やもおとなしく眠りませうねサンタクロスの爺さんがよいお土産をたくさん持つて來て下さるでせう……
イエスさまもおとなしくねんねしていらつしやるでせうね
坊やもおねむりよ おとなしく……。

潮聲
第四十九句集 天野雨山撰

雜詠

逆潮の声押し秘る野分かな　松堂
露まき庭の面や石叩
夜學子の門を出づるや語りつゝ
朝寒や風ある軒の古簾　晩霞
虫一つ豪雨の中を鳴きゐたり
萩叢のうら枯れそめて秋の蝶
秋晴や草に沈みし蜆蝶　石城
鳥起ちて初秋の風寒きかな
野分やんで風呂焚き急ぐ夕かな　芳月
輪轉機の音のみ高き夜ハかな
朝寒や隣は早き鉦の音　文狂
稻妻に見るや行く手の河の幅
色鳥や夕陽映ゆる峯の松　武門
畳替えて秋めく山の温泉宿かな
うたたねの蟲つめたし秋時雨　江亭
外燈や白う灯りて秋の暮　竹羊
うすら陽のさせる障子や秋時雨　香雨

新年懸賞短歌募集

一、題 水、雪、
　一人三首以内投稿(官製ハガキ使用のこと)
二、締切 十二月二十五日
三、發表 一月一日磐城新聞紙上
四、選者 小山田滋
五、賞品 一等(置時計)一名 二等(本紙三ヶ月購讀券)二名 三等(本社メダル)三名 秀逸(本紙一ヶ月購讀券)十名

磐城新聞社

時代聲

○一善微なりと雖日に發ふて害せざれば遂にその徳を成す、一小惡なりと雖日に長じて除かされは遂に身を失ふ………(伊藤東涯)

拈華微笑

◇夜の銀行に暴漢闖入。ギャングの卵と云ふ處だ年ネらしい話
◇夜色沈々、鐵窓裡城山の鐘を聽く、彼等の感想果して奈何
◇風の夜に背負ひ歩く廣告行燈。火防宣傳の折柄咄。何の矛盾ぞ
◇脫營して娼妓との途行き。年末に郡の不名譽一つ
◇カレンダー愈々あす共七枚
○……○

講談 お蘭陀お蝶 (216)
渡邊默禪作 布施長春畫

話しは速かだ、眞輝朝臣が歸京されてから七日も經たぬ中にお蝶の身は早や浮橋家の女中部屋に搬ばれた!

浮橋大納言の館は禁裡日の御門外に在つた、此邊一圓は公卿街ともいふべき所で殿造四足門の平安時代そのまゝの邸宅が列んでゐた大納言眞昭卿は從二位で參議の職に居られ、嫡男の眞輝朝臣は從四位の下で中務省に任へてゐた、家領は三白石、外に御役料は下るけれども、武家跋扈の末世、かしこくも禁延の供御さへ乏しきを告ぐる時代であつたので、勝手元は兎角に不自由勝、漸くに貴族としての體面をたもつといふ有樣で雜掌家司の苦心は一とほりでなかつた。

お蝶がお抱へになつてから半月餘りも經つと、養父の與平が心配してお館へやつて來た、恰どお出入の茶道宗哲が御奥に居合せた時であつたので、それを庭先へ呼び入れて釣殿の廊下先で會つた。

『おゝ與平か、よく見えたの、大低今日あたりは來さうなものだと思つて心待に待つてゐたところだ、さ、さ其處に腰をかけるがよい。お前にはいろ〳〵相談があるぢやでな』

『はい、有難うございますエ、此度ほ又娘のことに就きまして、何から何まで……はい〳〵懸けても宜しうございますか、如何にも餘りお立派で肩身が狹くなるやうな氣がいたします……彼の節は澤山な仕度料まで頂戴いたしまして、いやもうお蔭さまで……はい〳〵!』

『まア、そんな禮は言はなくても可い、此方へ寄れ〳〵』

與平は怖々と勾欄下の階段に蹲まつた、宗哲は近い所に腰を懸けた。

『娘の樣子はどうだらうかと氣遣つて見届けに參つたかの、いやそれならば少しも懸念いたすには及ばぬ、お抱へ早々、御籠中さまのお氣に召したことはそりや一通りでない、お莨を召上るにもソレ蝶や忘れて草ぢや、嚔みをなされてもソレお蝶や鼻紙ぢやと御意るくらゐ、上の御寵愛は大層なものだぞ、悦べ〳〵』

宗哲は扇を開いて煽ぎたてた

『おう、そんなに御機嫌に叶ひましたか』

與平は聞かうと思つたことを先から悉皆言はれて急にほく〳〵と相好を頽した

『有難い〳〵、それを承まはつて胸の溜飮もグッと下りました』

『オット、下るなんぞは禁句だ〳〵、今から下られて堪るものか、下る段か、おい與平、一足飛にズンと經上るやうに、出世の蔓がなブラ〳〵とお蝶の天窓に垂れて來たぞ、好い所だ、その相談に取かゝらうかの』

『は、娘が出世の蔓?ハテネ』

與平は莞然と瞬きして揩寄つた。

『それは外でもない、與平耳を借せ』

宗哲は一際聲を低くして

『お氣に召したのは御籠中樣ばかりではない、ソレ若さまな』

と言つてから急に四邊を眴した。

『はいはい、若さまが……は』

與平は頻りと天窓を振つて跡を促すやうにいふ。

『その若さまもきついお氣に入りやうでお蝶でなければ夜も明けず日も暮れぬといふ有樣、彼の分で捨置いたならば、今にもドッと床について大病にならうも知れぬが、さて困つたことには茶道や生花香合せ又は蹴鞠などの方ならば稼業柄お手の物だが醫道にかけたらいもりの薬も知らないといふ私ぢや、宗哲苦しいぞ癒して與れと仰せられてもハイ〳〵畏まりましたと申し上げることは能ない、さりとて此病ばかりは天下の名醫、典藥頭陰陽博士でも療治の道はないと昔からチャンと相場が極つて居るでな!』

少年行
島田忠夫

これぱかりは秘めてゐむ
吾れ十七ばかりなる頃
みめよくかなしき子ろがい寢るまのほとに觸れにき
おののけるわがを指もて
いま、かのをとめ二十となりて
信ふかく吾れに笑まふことあり
ああ
わが古ごとを知らでたまひね。

社會の今日

12月25日
△源頼義に安倍貞任を討たしむ(天喜五)
△大正を昭和と改元す(昭和元)
△警察部長會議開會△國際聯盟理事會開會滿洲問題緊急上程(同六)

○
やがて雪一抹かかる冬の富士、惜しいと思ふ朝の深呼吸　服部嘉香

大店のから〳〵と大戸おろす音、霜夜の月にひゞきて寒しも　佐々木信綱

ラヂオ
…二十五日(日曜)… 仙臺 JOHK

△前九、〇〇A 氣象
△九、一〇A 榮養料理(雜炎…主料理 果物…副料理)榮養研究所
△九、三〇〇(子供の時間)お話(大正天皇の御事ども)子爵梅園篤彦
△一〇、〇〇A 記念講演
△一〇、四〇B 講演(經濟的自由主義の回顧と展望!)大阪商大教授經濟學博士森經夫
△一一、一〇A 謠曲講座(謠の道しるべ)實演…觀世左近 解說…池內信嘉
△正午A 時報 氣象
△〇、三〇A ニュース
△〇、五〇B 謠曲ばやし(張良)山本博之
△一、三〇B 人情噺(幾代餅)橘家扇三
△二、〇〇C 箏曲 宮城道雄
△二、三〇C 獨唱と管絃樂 獨唱…伊藤敦子
△三、〇〇B 浪花節
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇 ニュース
△六、〇〇A (子供の時間)管絃樂 コロナーサロンオーケストラ
△六、三〇A 講演 池崎忠孝
△七、〇〇A ニュース 氣象
△七、三〇A 雅樂
△八、〇〇A 合唱と管絃樂 東京合唱團
△八、四〇A 新講談(大正天皇の御代)伊藤痴遊
△九、三〇A 時報 ニュース 氣象

歳末奉仕大賣出し

平素の御愛顧に酬ゆる謝恩奉仕大特價提供

二十二日 二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 の五日間

破格奉仕品

實用毛靴下(三足)	六十錢
純ヒコットンシャツ	一圓
最上メリヤスシャツ	八十錢
上等メリヤスズボン下	四十錢六十錢
純毛糸上等チヨッキ	一圓
本ネルワイシャツ	二圓五十錢
純毛婦人シャツ	一圓
純毛糸都腰卷	七十五錢
パンヤ二ツ折お枕	一圓
毛糸子供手袋	十錢
ラシャベレー帽子	四十錢
奉仕白キャラコ足袋	十錢
奉仕女別珍足袋	十錢

◎より良くより安き◎
㊣ 中野洋品店
平町二丁目 電五三番

開業廣告
醫學博士 渡部義夫
外科 全科 內科 一般 小兒科
女醫 渡部きい子
平町田町大通 渡部外科 電話二七七
(入院應需)

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井阪醫院
平町田町(元合津醫院跡) 電話五五九番

漆器も需要季に入り俄然暴騰致しました
絶好無二の御買時
在庫品見越買附品豊富
◎平素ノ御引立ヲ衷心ヨリ感謝シ
◎大奉仕精神ヲ徹底セシムベク
○在庫品全部ノ從前値段販賣ノ一大奉仕
お正月の御用意お屠蘇具が種々入荷致しました。
專門漆器平町に只一軒の………
ドコヨリモ。ヨイシナヲ……
ドコヨリモ。ヤスクウル。ヌリモノミセ
各國產漆器專門卸小賣
㊲ 共榮漆器店
(平町3町目36元郵便局裏通)
店員募集 十二三才…小店員 三十才迄…外交員 優遇す

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先(マツサキ)ニ(松崎(マツサキ)ニ)
三九(ミクニ)ニタクシーへ
(デンワ、ミクニ)

修理部新設
記念◎二割引特賣
期間…十二月十五日ヨリ一月十五日マデ
伸好堂選セントラル萬年筆
ハーモニー式……一、五〇錢ヨリ
標準型……一、〇〇錢ヨリ
御買求めに絶好のチャンス
豊富な品より御氣に召す御選定を…!
才槌小路
伸好堂書店
電(呼)五三八番

國產單式縫
めいりんの「サミエルミシン」
能率優秀、機械堅牢、價格低廉
小型 七圓七拾錢
大型 拾武圓
カタログ郵券貮錢付入左記へ御照會下さい
特約代理店 四倉驛前 白川一森
(販賣外交希望の方至急御來談を乞ふ)

低資借入申込者再た農銀支店へ暴れ込む
五八一圓警官急行前に逃走

昨二十四日午後八時半頃再た侯平町四丁目農工銀行平支店に暴れ込んだ五人組の怪漢あり一味は訴へ出でによつて平署員が馳付くる前に逃走したが右は大町某外四名で之れ亦中小商工業者救濟低利資金の借り入れがうまく行かぬのを銀行のせいと穿き違へての暴擧と判明した、尚六百二十餘名に達する平町の融資希望者は窮に苦しい中から五十錢乃至三圓の代書料其他の費用を支出して申し込み今や目睫に迫つた年末を控へ蘊張り事の埒明かぬに何れも氣を揉んで居る

大浦、泉、錦、入遠野 經濟更生村に指定
着々本格的活動に入る

大浦、泉、錦、入遠野四ヶ村は今回郡下に於ける農林省の農漁山村經濟更生村に指定されたので其の趣旨に副ふべく活動中であるが入遠野村では此程村民大會を開き協議の結果從來實行委員の選定が一部階級にのみ獨占された弊風を改革し堅實なる中堅靑年と中老組から人物本意に二十名の委員を擧げ五ケ年計劃の下に主要產物たる米、麥、蒟蒻の三割增收を目論む外小學兒女の制服統一、冠婚葬祭の費用節減、信用組合の設立其他を決議し指定町村としての實を擧げる事となつた

省用は依然減だが一般の需要增加
常磐炭界昨今の活況

昨今の常磐炭界は需要季の眞最中に在る事とて引續き相當の活氣を呈してゐるが去る十一日以降二十日迄の山元發送高は營業用三、五八八車四六、五九〇噸で前年同期を凌ぐこと實に二六八車三、三二九噸即ち一日當り三百三十噸强の激增を示してゐる、而して省用は一、三七五車二〇、六七〇噸で前同期より四一一車四、一七四噸を減少してゐるので差引四三車八四五噸の減である

廢業登錄僅少
茲にも活況の現れ

十二月は鑛業權設定に伴ふ明年度の鑛區稅納期になつてゐるが仙臺鑛山監督局管內で今月は試掘鑛區稅二十三萬餘圓、採掘鑛區稅が十三萬餘圓計三十六萬圓が最寄の稅務署を通じて納入させることになつてゐる、從來この鑛區稅決定期には稅金に追はれ採算が取れないと悲鳴を擧げ、切角魂を打ち込んだ山を放棄し廢業登錄を申請し稅金負擔の苦惱から逃れんとするのが夥しい數によるのであるが今年は山の放棄者が僅々二十三件、關係者が十二名に過ぎずそゞろに鑛山活況の裏面を現してゐる

國際聯盟批判演說會
明夕六時から聚樂館で
祖國愛に燃ゆる熱血の叫ひ

黑龍會員法學士竹內眞英氏は永年滿蒙の天地に活躍し殊に滿洲事變勃發以來は東奔西走各方面に寄與する處あつたが今回仙台よりの歸途平町に下車、國防普及會主催在鄉軍人平分會及常磐每日、磐城時報、本社三新聞後援の下に明二十五日午後六時より聚樂館に於て國際聯盟批判演說會を開く事となつた、會費十錢で多數の來聽を希望すると

水產實習品評會

郡水產會、小名濱、江名、四倉各實業學校聯合主催の第三回水產實習品評會は明春一月十四、五兩日四倉小學校に開催するが出品一千點に達する見込であると

月謝滯納に差押處分斷行
來月早々着手

平町では稅金と共に月謝の滯納に惱ん[illegible]在平商四一、八[illegible]そ、第一、第二校四〇〇圓一六〇名計八百十八圓百九十九名の多數を算するので整理上止むを得ず一月早々差押へ處分を斷行すると

兒童貯金一萬六千圓
成績良好な平第一小學校

平第一小學校の全員貯金は加入者千五百三名金額一萬五千九百圓一人平均十圓六十錢で昨年度と比較すると八十六名加入增一人平均六十一錢減で未加入者は僅かに十數名に過ぎぬと

大法螺を並べて六千七百圓詐欺
斤先權を振り廻した 贋鑛山王捕はる

當時住所不定無職靑森市米町七五生れ詐欺前科一犯西澤忠作(四三)は三月下旬頃赤井村石澤平太郎から川瀨炭鑛の一部である三菱炭坑の上層採掘權を二千圓で讓り受け之を種として東京市淺草區千束町三菓子卸小賣商杉浦基之(三二)に『自分は目下有力なる赤井炭鑛の經營者で鐵道省に一ヶ月五千噸を納炭して居るが昨今一寸の行き違ひから納炭料が滯つて居る』と大法螺を吹き掛け前後數回に亘つて六千七百圓を騙取逃走したので訴出に依り平署で嚴探中昨二十三日赤井村南赤井宕子平淺口今田久治方に潜伏中を逮捕し目下嚴重取調中

靑年學校薄荷栽培

磐城靑年學校では岡山縣の本場から薄荷根一貫餘を購入し過般來栽培中であるが一斤十二圓もするので精製して成績良ければ附近農村に獎勵すると

見當違ひの反感から脫營兵士戀の途行き
娼妓を伴れた高久村の上等兵
憲兵二名が來郡嚴探中

高久村下高久農步兵上等兵山木磐(二四)―特に假名は來月の滿期除隊を前に此程歸班時刻に遲刻した事から上官に譴責されたのを根に持つて昨二十三日所屬隊から脫走し仙台市常盤町遊廓壽樓抱娼妓山口ハナ(二二)と馳落したが鄕里に立廻る模樣あるので憲兵隊から平署に手配の電報あつた外憲兵二名が來郡目下嚴探中である

町議忘年會

平町會議員の忘年會は今二十四日午後六時から谷口樓で開催

今夜收容か
小名濱疑獄の巨魁

平署で極秘裡に取り調べを受けつゝあつた高木武士及椿木技師の兩名は愈々今夜

磐中人國記 三
赤井嶽男記

磐中騷動後日譚
◇辭表提出を迫る

誰がタクトを振つたともなしに眼を血走らした四年生一同は、雪崩れを打つて校長室に殺到した。冷然自ら居る道學の植竹校長も之の物々しい光景に些か心の平靜を喪つた證據には一同の殺到した理由を訊ぬるに語尾が著しく顫えを帶びてゐた、硯を持つた伊澤保藏君(慈惠醫專卒業双葉郡新山町開業)と、紙を持つ猪狩元近君(同郡上岡村)とが眞つ先に進むよと觀る間に總帥格たる佐藤三郎君や藤井暢七郎君をはじめ極度に意氣軒昂の面々は口々に辭表を書けと喚き立つて中には『書けぬならば手を取つて遣るぞ』なんて力味返る勇敢なのもあつた。最初のストームは『考慮をした上で……』とか何とかお茶を濁してその場の晃が着いた

◇曠日彌久に憤慨

爆彈を懷いたやうな氣持で不安の幾日かを送り乍ら猝かに去就を明かにせぬ校長の發え切らぬ態度は、旣に闘爭意識に點火されてブス\/と黃色い烟を吹いてゐる四年生に到底堪へられる筈は無かつた。斯くして第二回の詰め談判を試みられんとして一種異樣な緊張は自ら全校內に遍滿したのであつた。

◇再び校長室へ

之より先思慮周到なる植竹校長は、少くとも朝來ただならぬ空氣の動搖を看て取つた。而して忘れんとし忘れ得ざる憂鬱の氣分を紛らすべく校庭の巡視に出たが途中から氣が變つたかして漂然と校門を出た校長は今の大越中佐の銅像傍から縣社を通りぬけて紺屋町へ下り、折良くも本店前にあつた人力車を賴んで此場の助け船に歸省中の大越中佐(當時大尉)を訪ぬべく一路白水へ急がせた。

◇縣社境內の搜索

とも知らず校長室に押しかけた面々は、目指す校長室の藻拔けの殼に、上げた拳の下し處に困り長蛇を逸した口惜しさに地團駄を踏んだが間も無く校長はオーヴアーの襟かげに帽子―その頃校長は學帽を冠つてゐた―を忍ばせ乍ら校門を出たと云ふ情報を耳にしたので或は其の邊に居るでは無いかと、手に手に棒切れなどを翳し乍ら寒梅垂々風篠疎々たる縣社の境內あたり隈なく捜し廻つた。

◇助け船大越大尉

その頃白水の大越家の[illegible]敷では顏色稍々蒼みを帶びた植竹校長と、眉宇に精悍の氣を漲らした仙台地方幼年學校教官大越大尉とが對座して

『それはお困りですな』

『全く弱りましたよ……』

なんて話が忍びやかに交されてゐた。

年迫る
濛々たる湯氣に深夜を働く
感傷の街を流し行く支那そばの笛
……(U)……

『支那そば屋、夜業の窓を見逃さず』……あの輕妙洒脫な素文の漫畫の如く朦々と立昇る湯氣の中から哀調のチャルメラの音が、颯々と吹き捲る空っ風に交つて街の辻々に鳴り響けばポン!と出される十錢……[illegible]調子で師走は書き入れ時の支那そば屋さんだ―。

▽　△

自動車が行つて、自轉車が來て、クライマックスに達した、ざわめける師走の步調もハタ!と杜絕えた街頭を―餘韻嫋々たる城山の鐘に應じて例の支那そばやさんのチャルメラの音が橫丁を折れて跚ねて來る。……早くも待ちわべるた客さんに、印絆纒に振り鉢卷威勢のよい、いでたちの親爺さんが片手で鼻梁をキュッ!と擦り上げると澁團扇を握つて婆娑!バサ・バサ!。膚を劈く樣な一陣の空つ風が『ビュー』と電線を唸らして行き過ぎる……。

▽　△

『ほんに、これがらがわつち等の踊り時季で……』と賣上を胴卷の底にネヂ込み咄嗟で擔棒を握つたかと思ふと屋台は早くも有望地、銀行四ツ角指して……―しきり鳴り出したチャルメラの音と共に動き出して行く!。

(玲光生)

一ケ月に三萬六千圓「曉」の紫煙に消ゆ
平出張所の莫大な賣上

去月二十五日から賣り出した水戶專賣局平出張所煙草元賣捌所に於ける新煙草『曉』の賣れ行きは十個入二萬四千個三萬六千圓の巨額に上り忽ち品切れとなつたので最近第二回一萬八千個を管內各小賣店に配布したが之亦年內に大部分賣り盡すといふ豫想である

贈答用の煙草賣れる
大晦日迄に五萬圓突破か

水戶專賣局平出張所では目下年末年始贈答用の新裝煙草の配給販賣に大童となつて居るが値が張らず体裁も優美なために一般から大歡迎を受け昨二十三日迄の賣捌高は三萬三千九百餘圓で年末迄には五萬圓を突破するものと豫想されて居る

。。。。農村會合一束。。。。

箕輪村農會主催の農事傳習會は二十八日午後一時から村役場で

菊田農村研究會第四回總會は三十日午後四時から川部小學校で開催する

職工側遂に勝つ
未拂賃銀請求事件に朗かな判決下る

血の滲むやうな勞働賃銀の支拂ひを誤間化されて裁判の費用もないところから泣き寢入りになるところを、訴訟上の救助(極貧者に對して裁判所が訴訟上の費用一切を免除するもの)を受けて、見事勞働者側の主張を貫徹し、會社の不拂賃銀を全額支拂はせた明るく朗らかな判決が二十三日宮城控訴院で言渡された

小名濱町坂卷貞吉、赤井村眞木倉次等七名、の赤井村煉瓦工場に働く勞働者が、その經營主であつた東京市麴町丸ノ內ビル石城耐火煉瓦株式會社を相手取つて不拂賃銀の請求訴訟を起したが

一審では

會社側が不景氣で該工場を矢野某に讓つた際、不拂賃金を半分に切捨てゝもいゝから仕事をさせて吳れといふ職工側の願ひを入れて千圓を支出して賃銀問題は解決してゐるとか、該請求は時效にかゝつてゐる、又坂卷貞吉には未拂金を棒引の約束で二十圓やつたなど〻詭辯を弄し

一審判決では千圓を支拂つた殘金として各原告に對し二十圓前後を會社が支拂ふ事となつたが、職工側では血の滲んだ勞銀を誤間化されては堪へられぬとあつて控訴、宮城控訴院で審理の

結果

會社が該工場讓渡に際し矢野某に千圓を支拂つたとのは事實だが矢野某は決して職工の代理として該金を受取つたものではない又職工坂卷貞吉が受取つた二十圓は解雇手當だとの職工側の主張を採用して、原告職工等の請求額通り會社は最高三百五十圓から最低七十一圓まで何れも職工の未拂賃銀を支拂へ―との職工側勝訴の判決をうけたものである

爆音で斷層調査
青山博士滯郡中

東京帝大工學部鑛山科教授工學博士青山秀次郎氏は昨二十三日來平、今二十四日朝來地方各炭鑛所長及技術者立會見學の下に赤井村田圃にダイナマイトを裝置爆發せしめ其の音響を電示して斷層の方法其他分布狀態を調査するの試驗を遂げたが明二十五日も續行歸京すると

物騷な廣告行燈
風の夜を步き廻り 一の井に非難の聲

昨今の火災季に於て各自が特に火の元に注意してゐると見へ最近殆どボヤ騷ぎさへ聞かぬ位であるが一昨二十二日夜可なりの風があつたに拘らず臘燭を點じた一の井の廣告行燈が打ち振る鈴の音と共に町から町へ步き廻つたので時節柄見る人をしてはら\/せしめ如何に廣告の爲とは謂へ餘りの無關心振りに非難の聲が高まつてゐる

。。。。郡水產會總會　一月十五日午後一時から小名濱町水產工業會社で開く

。。。。平商教室へ梟　平商業學校四年教室へ今二十四日早朝梟が舞ひ込んだので之を生け捕り大事に飼養中であると

。。隔離　飯野村北白土山木トク(八)は昨二十三日ヂフテリアと決定隔離された

投槍
投書歡迎

△蚊士啼く勿れ

◇一寸した創作を書き得る文學かぶれの數無慮幾萬……。曰く自稱天才の文士の一黨に外ならない。文士ならばまだいゝが、彼れ等はすでに蚊士になつてゐるではないか、見よ彼等の日常生活を而して大道をねり行くさまを、言行不一致の矛盾を平氣である顏を。

◇藝術が榮行くことを欣快に堪へない、吾人もひとしくよろこぶところであるが併し自惚屋の蚊士の跋扈を呪はざる得ない、よく聞けよ、おまへ達位な頭と力を持つてゐる奴輩は道傍の石ころほど世間にゐるんだもつと小さくなれ。

◇更に一步踏こんで考へて見るがいゝ若い時代の情熱と氣まぐれと、時代の風潮につられて、自己を殺してまでも文學に憧憬する者のいかに多きことよ!茲でいつて置くが文藝を一生の伴侶として生活し得る男はそんなにウント居やしない誰も彼もが出來やしない精神一到何事か成らざらん……その意氣愛すべし。だが待てよ、文學の道は、いや藝術の道は天分に依ること大であるのだ、彼等よ反省して見るがいゝ、自己の個性を……自己を忘れて文學に溺れる者の末路を。

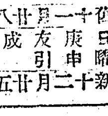
◇文學が、いや藝術が解放されて普及され民衆化されることは喜ばしい、しかし民衆化普及化せんがために、商品化せられることを吾らは恐れ且悲しむものである。

◇個性を殺すな、その個性の求むる樂を求めよ、誘惑の釣物にかゝつて一生を破滅に導くことのいかに哀れなるか、個性即ち天才。各自はみんな天才なのだ。諸氏の力の奮鬪を待つのみ個性を尊べ!。(一靑年)

平町慶弔錄

△出生　久保町二田村郡守山町金澤田中一〇二國井宗一長女美代子　久保町一五四倉町本町一〇四佐々木國治三男道三

△婚姻　久保町二國井宗一(三六)村木町二中村ハル(二六)



新十二月廿五日　日曜
舊十一月廿八日　庚申　友引　成　虛宿

鑑判定廳
東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神 誠 舘

▲一白の人　一喜一憂を免れず業務靑なれば病になかさる▲二黑の人　逸る心を壓えて他事を企てず定業を守り吉▲三碧の人　心の動搖を靜め人言にいざなはれぬ用心が第一▲四綠の人　旣得の業務に專念して他事を企てぬが安全▲五黃の人　氣運次第に逆轉する日起業開店等皆諸な凶▲六白の人　千慮に大失ある日進まんより退くが極安全▲七赤の人　勝誇りて伏兵に慘敗する如し勢に乘るは凶▲八白の人　華々しきは凶諸事地味に取り計らふが安全▲九紫の人　根氣を以て幸運に乘ずべき日熱心の功あり

歲末御禮大賣出し
二十五日より……年內
御愛顧に報ゆる大奉仕!
御用命は是非此の好機に!
あかや洋服店　平二　電二〇三

金銀高價買入
買札は(金時計、鎖、指輪類)有利に御相談致します
平町二丁目(三幸堂跡)
根本時計店
電話六〇七番